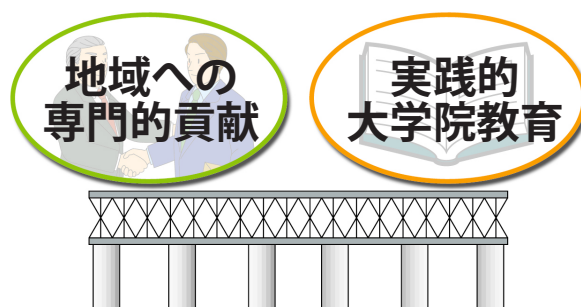


地域支援プロジェクト 地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発 : 2015年度 (平成27年度) 報告書

著者	小澤 永治, 橋 佳代, 稲谷 ふみ枝, 平田 祐太郎, 江口 夏紀
ファイル (説明)	奥付 最終章 第4章 第3章 第2章 第1章 学長/研究科長メッセージ 目次 [表紙]
別言語のタイトル	Community Support Project Annual Report 2015
URL	http://hdl.handle.net/10232/26460

第1章 地域支援プロジェクトとは

1. 地域支援プロジェクトの概要



鹿児島大学大学院臨床心理学研究科は、専門職大学院の中でも、我が国初の独立研究科として2007年4月に設立されました。

2010年度から2012年度には、さらなる臨床心理実践教育の充実を目指して、文部科学省による特別教育研究経費プロジェクトとして、「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」を行いました（通称：地域支援プロジェクト）。

本事業では、教員と大学院生が協働して様々な地域に出向き、講演会・研修会・事例検討会・相談支援といったデリバリー方式によるアプローチを行い、専門職大学院としての新たな形での地域貢献を提供すると同時に、地域支援実践が行える臨床心理士の養成を目指した教育プログラムを開発してきました。また、地域支援の窓口として、「専門職大学院支援室」を司法政策研究科と共同で設置し、地域支援プロジェクトの運用体制を整備してきました。

2013年度まで地域支援プロジェクトで行ってきた、遠隔地・離島支援を含んだユニークな地域貢献活動が評価され、2014年度からは本研究科の重要な教育研究事業として位置付けられました。このようにして地域支援プロジェクトは、臨床心理学を基盤とした地域支援の臨床実践と実務教育の架橋につながる全ての地域支援活動を含み込む形で発展的に継続しています。



地域での支援活動



大学での研修会



大学院生への実践教育

2. プロジェクトの目的と実施体制

(1) 目的

本研究科は、ティーチング・クリニックである心理臨床相談室における学内実習と、2年間で教育・福祉・医療の3領域4箇所における学外実習を柱とした、臨床心理士養成のための高度専門教育を行っています。

学内実習・学外実習においては、実習施設内に勤務する臨床心理士が実習指導にあたり、相談者が自発的に相談機関を訪れる来談形式による心理面接を中心とした臨床心理教育が行われてきました。しかし、近年の心理臨床においては、来談形式だけではなく、専門家が実際に地域に出向き心理臨床的支援を行うことが求められています。

そこで、この新しいニーズに対応すべく、機関や地域に出向き、実際に求められる実践的臨床技能を育成する臨床心理教育のあり方を真剣に問うことになりました。

実践的臨床技能とは、①個人、集団を見立て、②個人、集団への援助方針を立て、③キーパーソンを特定し、④他職種、組織との連携、を行える能力を指します。

本事業の目的は、実践的臨床技能を有する臨床心理士育成のために、来談形式を超えて、実際に心理臨床家が地域に出向き心理臨床的支援を行うという、地域支援の実践と実務教育をつなぐ“架橋”をつくることです。

2015年度においても多くの方々のご理解とご協力を得て、「地域支援プロジェクト」では、地域支援における、臨床心理士を含む多職種の地域専門職への支援、当事者支援、行政機関への助言、地域支援活動に関する国際交流が行われました。

(2) 実施体制

2015年度は、統括責任者の中原睦美研究科長のもと、下の表のように組織編成されました。この組織編成に基づき、教員スタッフによる地域支援実践を本プロジェクトの活動として実施しました。このような体制の中で支援活動を行うとともに、大学院生が発達検査など地域での実践活動を行う際の支援や、研究科の授業カリキュラムや学内実習と連携した活動の展開に取り組みました。

役割		担当者
統括		中原 睦美
		稲谷 ふみ枝
プロジェクト スタッフ	企画・進行 など	小澤 永治 (リーダー)
		高橋 佳代 (コ・リーダー)
		平田 祐太郎
		江口 夏紀

役割		担当者
教員メンバー	運営など	宇都宮 敦浩
		金坂 弥起
		松浦 隆信
		松木 繁 山中 寛
プロジェクト 支援室	実施準備・ 補助	平田 祐太郎
		江口 夏紀
MICT 運用	機材運営	小澤 永治
		小山 憲一郎